

国立国会図書館支部図書館制度創設70周年記念国際シンポジウム

イノベーションと 公共部門の役割

International Symposium Commemorating the 70th Anniversary of the National Diet Library's Branch Library System — Innovation and the Role of the Public Sector

2018年3月1日 **木**

14:00~17:00 (開場13:30)

国立国会図書館

東京本館 新館3階講堂

日英同時通訳付き

参加費
無料

イベント概要

国立国会図書館は、立法府に属する国立図書館として、支部図書館制度の下で資料・情報の側面から行政・司法部門を支援しています。立法府の図書館が、立法、行政、司法の三権分立を維持しつつ、行政・司法部門に置かれた支部図書館と連携・協力する制度は、世界的にも例がありません。また支部図書館制度は、行政・司法部門から生み出される情報を、国立国会図書館への納本を通じて公衆に提供する重要な役割も担ってきました。

平成30年、支部図書館制度が国立国会図書館の開館とともに70周年を迎えます。この機会に、現代社会における公共部門の役割について、イノベーションにおける官民の境界を超えた相互作用、責任ある研究・イノベーション (RRI)、イノベーションをめぐる政治経済といった視点から、藤垣裕子東京大学教授、柳川範之同教授ほか、海外からも第一線の研究者をお招きし、米国、EU (欧州連合)、北欧の経験も踏まえながら議論します。



国立国会図書館
National Diet Library, Japan





フレッド・ブロック Fred Block

カリフォルニア大学デーヴィス校社会学部教授

Research Professor, Department of Sociology, University of California, Davis

専門は経済社会学、政治社会学、社会学理論等。近年の研究では、米国の民間経済における技術開発に政府が果たした役割を明らかにした。現在は、官民連携の新たな文脈においてイノベーションを支援するために必要とされる財政改革や新たな制度を中心に研究している。『資本主義：錯覚の未来（原題：Capitalism: The Future of an Illusion）』（University of California Press）を2018年刊行予定。

主な著書：『国際経済混乱の起源（原題：The Origins of International Economic Disorder）』（University of California Press, 1977）
『脱工業化の可能性（原題：Postindustrial Possibilities）』（University of California Press, 1990）
『ヴァンパイア・ステート（原題：The Vampire State）』（The New Press, 1996）
『イノベーションの国：技術開発における米国政府の役割（原題：State of Innovation: The U.S. Government's Role in Technology Development）』（共著、Routledge, 2011）
『市場原理主義の力：カール・ポランニーの批評（原題：The Power of Market Fundamentalism: Karl Polanyi's Critique）』（共著、Harvard University Press, 2014）等



ウルリーケ・フェルト Ulrike Felt

ウィーン大学社会学部長、教授（科学技術）

Professor of Science and Technology Studies

Dean of the Faculty of Social Sciences, University of Vienna

専門は研究文化の変容（特に、研究における価値体系の変化、質の保証と責任の問題、学術研究の時間構造）及びガバナンス、民主主義、公衆による科学技術への関与と受容。研究分野は生命科学、医学、生物医学、ナノテクノロジー、核エネルギーとその持続可能性にも及ぶ。1983年ウィーン大学で物理学（数学副専攻）博士号、1997年科学社会論／科学社会学の教授資格を取得。1983年から1988年まで欧州原子核研究機構（CERN、スイス・ジュネーヴ）に勤務。2014年から現職。ウィーン大学学部間研究プラットフォーム「学術研究における責任ある研究・イノベーション」の長も務める。2017年からは欧州科学技術研究協会（EASST）会長。また、数々の国際的学術組織で客員教授を歴任。ザイマン賞（EASST）、STSインフラ賞（国際科学技術社会論学会（4S））、オーストリアイノベーション教授賞（オーストリアの大学の優秀教授賞）などを受賞。2002年から2007年まで *Science, Technology, & Human Values* (SAGE Publications) と、*Handbook of Science and Technology Studies* (MIT Press, 2017) の編集責任者。



デリアス・オーンストン Darius Ornston

トロント大学マンク国際問題研究所准教授

Assistant Professor, Munk School of Global Affairs, University of Toronto

専門は北欧諸国の比較政治経済学。特にイノベーション及びイノベーション政策に関わる協同の原因と結果を研究の主題としている。マンク国際問題研究所着任以前は、カリフォルニア大学バークレー校で政治学博士号を取得し、ジョージア大学及びジョージア工科大学に勤務。*Comparative Political Studies*、*Comparative Politics*、*Governance*、*Review of Policy Research*、*Socio-Economic Review*、*West European Politics* の各誌、欧州復興開発銀行、OECD、世界銀行の刊行物等に論文が掲載されている。

主な著書：『小さな国が大きな飛躍を遂げるとき（原題：When Small States Make Big Leaps）』（Cornell University Press, 2012）
『腐敗するグッド・ガバナンス（原題：Good Governance Gone Bad）』（2018年刊行予定）



藤垣 裕子 Yuko Fujigaki

東京大学大学院総合文化研究科教授

Professor, Graduate School of Arts and Sciences, University of Tokyo

専門は科学技術社会論・科学計量学。東京大学大学院で博士号を取得。2000年東京大学総合文化研究科広域システム科学系助教授、2007年准教授、2010年より現職。科学技術振興機構社会技術研究センター「科学技術と人間」領域アドバイザー(2007-2013)、日本学術会議連携会員(2011-2016)、文部科学省科学技術・学術審議会委員(2012-2014)、科学技術社会論学会会長(2013-2016年度)、内閣府総合科学技術・イノベーション会議専門委員(2014-2015)のほか、日本学術振興会先端科学シンポジウム(FOS)事業委員(2011-)、国立国会図書館科学技術情報整備審議会委員(2014-)を務める。

主な著書：『専門知と公共性：科学技術社会論の構築にむけて』（東京大学出版会、2003年）

『科学技術社会論の技法』（共編）（東京大学出版会、2005年）

『科学コミュニケーション論』（共編）（東京大学出版会、2008年）

Lessons from Fukushima: Japanese Case Studies of Science, Technology and Society (Springer, 2015) 等



柳川 範之 Noriyuki Yanagawa

東京大学大学院経済学研究科教授

Professor, Graduate School of Economics, University of Tokyo

専門は契約理論、法と経済学。1988年慶應義塾大学経済学部卒業、1993年東京大学大学院経済学研究科博士課程修了、博士号取得、1993年慶應義塾大学経済学部専任講師、1996年東京大学大学院経済学研究科助教授、2007年同准教授、2011年より現職。2013年日本経済学会石川賞受賞。総合研究開発機構(NIRA)理事、日本応用経済学会理事、法と経済学会理事などを務める。

主な著書：『会社法の経済学』（共編著）（東京大学出版会、1998年。第42回日経・経済図書文化賞受賞）

『契約と組織の経済学』（東洋経済新報社、2000年）

『法と企業行動の経済分析』（日本経済新聞出版社、2006年。第50回日経・経済図書文化賞受賞）

『フリーコピーの経済学』（共著）（日本経済新聞出版社、2008年）

『東大柳川ゼミで経済と人生を学ぶ（日経ビジネス人文庫）』（日本経済新聞出版社、2015年）

『ブロックチェーンの未来』（共編著）（日本経済新聞出版社、2017年）

『人工知能は日本経済を復活させるか』（編著）（大和書房、2017年）等

支部図書館制度とは？



支部最高裁判所図書館

国立国会図書館法に基づき、行政・司法各部門（府省庁と最高裁判所）の図書館を、国立国会図書館の支部図書館としても位置づける、日本独自の制度です。平成30年3月現在、33館（6分館を含む）の支部図書館があります。

支部図書館は、行政・司法各部門に属しており、所掌する分野に関する専門図書館として、国立国会図書館や他の支部図書館と連携して、資料の貸出し・複写・レファレンスサービスを、主に各部門に所属する職員に対して行っています。

国立国会図書館は支部図書館を通じて行政・司法各部門へのサービス提供を行うとともに、各部門の刊行物（官庁出版物）を納本制度によって収集・保存しています。さらに、国民による国の行政情報へのアクセスを保障するため、収集した官庁出版物を国立国会図書館で閲覧に供しています。

イノベーションと公共部門の役割

International Symposium Commemorating the 70th Anniversary of the National Diet Library's Branch Library System — Innovation and the Role of the Public Sector

プログラム

14:00	開会の辞 国立国会図書館長 羽入佐和子 Opening remarks by Dr. Sawako Hanyu, Librarian of the National Diet Library
14:05-14:15	開催趣旨と支部図書館制度の概要 国立国会図書館総務部長 田中久徳 “Aim of the symposium and overview of the National Diet Library's Branch Library System” by Mr. Hisanori Tanaka, Director General of the Administrative Department
14:15-14:20	イントロダクション（パネリスト紹介及び講演テーマ解説）藤垣裕子氏 Introduction by Dr. Yuko Fujigaki
14:20-14:40	講演①「米国のイノベーションシステムにおける共同研究ネットワーク」フレッド・ブロック氏 “Collaborative Networks in the U.S. Innovation System” by Dr. Fred Block
14:40-15:00	講演②「欧州における『責任ある研究・イノベーション』の発展と実践」ウルリーケ・フェルト氏 “Developing and implementing ‘Responsible research and innovation’ in Europe” by Dr. Ulrike Felt
15:00-15:20	講演③「北欧諸国におけるイノベーションの政治学」デアラス・オーンストン氏 “The Politics of Innovation in Nordic Europe” by Dr. Darius Ornston
15:20-15:30	講演まとめ 藤垣裕子氏 Summary by Dr. Yuko Fujigaki
15:30-15:40	コメント 柳川範之氏 Comments by Dr. Noriyuki Yanagawa
15:40-15:55	休憩 Break
15:55-16:55	パネルセッション及び質疑応答 Panel Discussion including a Q&A session
16:55	全体のまとめ 藤垣裕子氏 Wrap-up by Dr. Yuko Fujigaki

会場案内・注意事項

- ・ シンポジウム会場をはじめ館内は全館禁煙です。
- ・ 館内は飲食禁止です。新館3階会場前ホール奥に冷水機を用意しています。また、密閉された容器に入った飲料は新館2階入口ロビーでお飲みいただけます。
- ・ 館内での撮影は禁止されています。
- ・ 携帯電話は、会場内ではマナーモードに切り替え願います。通話をご遠慮ください。
- ・ 貴重品・お手回り品につきましては、各自でご注意をお願いします。
- ・ お手洗いは、新館3階会場前ホール奥・新館2階入口ロビー奥にございます。
- ・ 休憩時間中、閲覧スペースへの立ち入りはできません。
- ・ 本シンポジウムは記録のため写真撮影・録音を行います。記録は国立国会図書館ウェブサイト上で公開する予定です。

